

第 603 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

フリートーク



平成 26 年 12 月 17 日

BSN新潟放送

第603回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成26年12月17日(水) 16:00~

2. 開催場所 ホテルイタリア軒 「朝日の間」

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	高井盛雄	委員	佐々木広介
委員	小島良子	委員	行形貴子
委員	佐藤元		

○委員側欠席者

委員	正道かほる	委員	古賀豊
委員	佐藤明		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
常務・編成局長	水田義雄	営業局長	斎藤和利
報道制作局長	五十嵐幹史	ラジオセンター長	鍵富徹

○事務局

事務局長	小原弘志	(社長室長)
事務局員	増山由美子	(考查広報部長)

4. 議題

◆ フリートーク

7月~12月放送のラジオ・テレビ番組(自社制作・TBS他ネット番組)
および放送全般・選挙報道についての意見交換

5. 議事の概要

～番組審議委員の主な意見～

<番組について・放送全般について>

- 小学校6年生のテレビ視聴調査によると、よく見るテレビ番組は、バラエティ・ドラマ・アニメ・クイズ番組だという。クイズ番組で学習に関連するものは特によく見ていている。アニメなどが圧倒的に多いのかと思ったら、案外さまざまなジャンルを見ている。子どもたちに見せたいと思うような番組を制作してほしい。
- 新潟の魅力、すばらしいところを子どもたちに向けて発信してほしい。ふるさとに自信を持てるようになる。
- 子どもは親が見たい番組と一緒に見ている。親子で、そして家族みんなで見られる番組を制作してほしい。
- 「情熱にいがた」毎回視聴している。DVDや書籍になると嬉しい。
- 小学校高学年にBSNのどんな番組を見ているか聞いたところ、女の子たちの多くが「ダイばん！」をあげた。大学生のファッションや紹介する情報に興味があるとのこと。大学生が作る番組が小学生に人気ということは意外だった。
- CMをはさんで同じVTRを繰り返し放送するのは時間の無駄。やめてほしい。
- ラジオで新年に箱根駅伝を放送するが、スポーツ中継には大変な苦労があると聞いている。キー局のラジオ制作者の話も聞いてみたい。
- ノーベル賞受賞者を取材する中で、奥さんの衣装の値段やバッグの中身までリポートするのはいかがなものか。過熱し過ぎである。
- BSNの若手アナウンサーの成長を感じる。
- 以前放送された「かなやん」に注目している。年末に続編が放送されるとのことで楽しみである。
- 視聴者が参加する番組が減っている。以前は一般の人が参加するクイズ番組などが多くあった。視聴者に参加してもらうことは、テレビに視線を向けてもらうにつながるので、以前のようにやってみてはどうか。

<衆議院選挙に関わる選挙報道全般について>

- BSNが新潟県内の情勢を中心に放送していた内容はとても良かった。やはり知りたいのは身近な情報である。
- 生放送なので仕方ないが、候補者のインタビューが中断されたケースが何回かあり残念。
- 選挙期間中、「●●党が圧勝」というアンケート結果をマスコミが伝えていたが、これが投票率の低下につながったのではないか。マスコミの影響は大きい。よく考えた上の報道が必要ではないか。
- 若者が投票に行かない。興味を持たせるような報道や、期日前投票がどこでできるのかなどをアピールすることもしてほしい。
- どこの局も内容がマンネリ化している。同じような人たちが同じような話をする。独自のスタイルを作っていくのが課題。
- 選挙番組は、各放送局がそれぞれやる必要があるのか疑問。民放連などが順番を決めてやるなど考えてもよいのでは? BSNも、人・機材フル活用で対応していたと思うが、中継場所によってレベルの差があった。たとえば県内の選挙事務所ごとに各局割り当てを決めて配信するとか、国民にとって有効な情報の伝え方を考えるべきではないか。

～竹石社長より～

選挙報道について。今回は各選挙区が接戦だった。B S Nは、今までにないくらい時間 を割いて県内情報を伝えるべくローカル放送に徹した。

選挙報道の在り方については今後も模索していきたい。

また、番組については、親子で見られて家族の話題にできるような良質な番組を制作していくことを考えたい。

私たちが見落としがちなことを、この審議会で皆様からご指摘いただきありがたい。

ご意見を真摯に受け止め、絶えず緊張感を持って放送・イベントを実施していきたい。

一年間、本当にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。